

Harvard T.H. Chan School of Public Health 留学記



馬殿 恵

Megu Baden

Department of Nutrition, Harvard T.H. Chan School of Public Health

はじめに

私は2018年3月より米国マサチューセッツ州ボストンにあるハーバード公衆衛生大学院(HSPH)のDepartment of Nutritionにて、Frank B. Hu教授の下でポスドク(postdoctoral research fellow)として留学生活を送っています。

HSPHは1913年にハーバード大学とマサチューセッツ工科大学(MIT)の共同プログラムとして始まった米国最古の公衆衛生大学院の1つで、特に生活習慣病やがん、肥満、栄養における疫学的調査では世界をリードする研究を行っています。なかでもHu教授は糖尿病や心血管疾患、肥満の予防について疫学、遺伝子、バイオマーカーなど様々な観点から研究を進めており、その中で得られた研究結果はエビデンスとして様々なガイドラインに取り入れられています。

留学のきっかけ

留学前は大阪大学大学院医学系研究科内分泌・代謝内科にて、糖尿病専門医として臨床および研究に取り組み、博士課程では膵β細胞のウイルス感染モデル作製についての基礎研究にも従事しておりました。加えて、かねてより予防医学や疫学研究にも興味をもっており、後期研修医として勤務した住友病院では松澤佑次先生、山田祐也先生の下、アディポネクチンについて、また大

阪大学では今川彰久先生(現 大阪医科大学 教授)の下で日本糖尿病学会の劇症1型糖尿病やPD-1阻害薬に関連する1型糖尿病についての臨床研究に関わらせていただきました。これらの経験を通して改めて臨床研究の重要性を実感し、糖尿病の臨床に役立つ研究手法や統計、疫学の知識や技術を身につけたいと希望し、現在、



ハーバード公衆衛生大学院の外観